

図 1

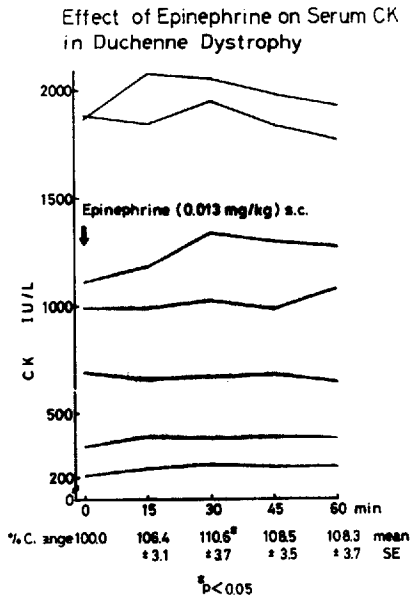
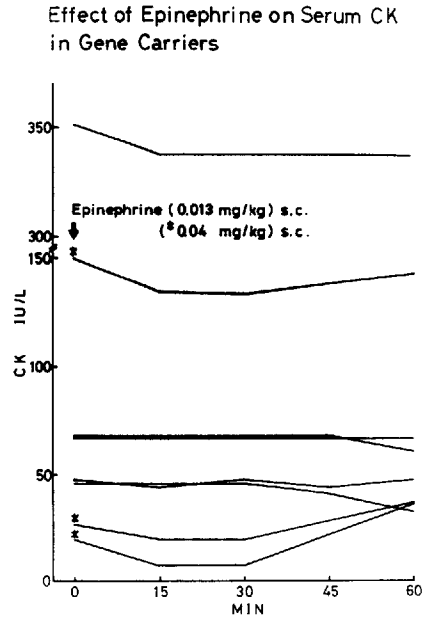


図 2



8. テレメーター心電計を用いた適切な訓練量の決定

国立療養所兵庫中央病院

高井恒夫 新光 毅

〔目的〕

筋ジス患者の機能訓練量については、心電図所見や肺機能、疲労度などをもとに個々の症例で心肺機能に過重とならぬ様な適切なものが決められねばならない。我々の施設に、運動中でも記録可能なテレメーター心電計が設置されたので、これを利用して運動負荷前、負荷中および負荷直後の心電図を記録し、この所見をもとに訓練量の適否を簡便に判定することを目的とした。

〔方法〕

今回は対象を比較的軽症な歩行可能者とし、ステージⅡ～Ⅲのデュシャン型（D型）3名、ステージⅡの肢帯型（LG型）2名、顔面肩甲上腕型（FSH型）1名である。運動負荷としてはステージⅡの者には最大速度の歩行5分間、ステージⅢの者には四つ這い10分間を行なった。心電図記録は運動前、最中、直後とも全て同じ体位でとり、同時に自動記録される脈拍数も参考にした。また別に、D型患者では入浴時にかなりの頻脈となるので、入浴前後の心電図と脈拍数を

記録して参考にした。

〔結果〕

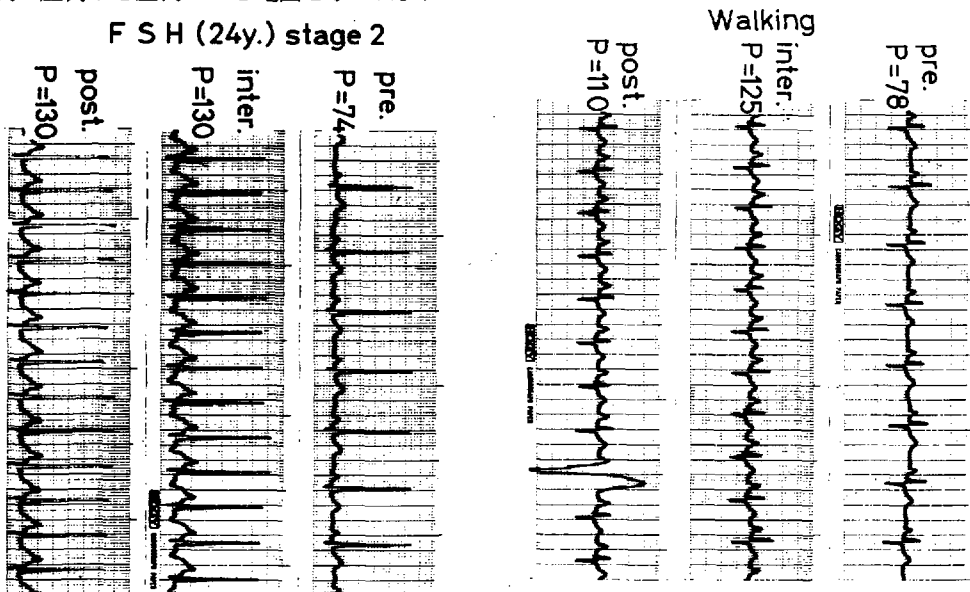
症例型	ステージ	負荷	脈拍数	P 波	S T	T 波	
1	D	Ⅲ	四這	+ 35	軽増高	不変	軽平低
2	D	Ⅲ	四這	+ 40	不変	不変	不変
3	D	Ⅱ	歩行	+ 30	不変	不変	不変
4	LG	Ⅱ	歩行	+ 36	不変	不変	軽平低
5	LG	Ⅱ	歩行	+ 62	増高	不変	平低
6	FSH	Ⅱ	歩行	+ 56	増高	低下	平低

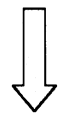
運動負荷による心電図変化をまとめてみると、P波の増高が3例、S T低下が1例、T波平低化が4例であった。症例5では、元来1分間に1~2回出ていた心室性期外収縮が、1分間に10回以上も出現した。なおT波平低化は、一部のD型で入浴による頻脈の際にも認められた。

〔考察〕

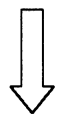
運動負荷によるS T低下や心室性期外収縮の頻発は、心不全に結びつく所見と考えられるのでこれらの場合は過大な負荷と判定すべきである。T波の平低下はマスターの二階段テストでは陽性所見の一つであるが、筋ジス患者では運動負荷時のみならず、入浴でもみられ、比較的出現しやすい所見であり、これをもって過負荷とすべきかはさらに検討を要する。P波の増高は、狭心症者に対する運動負荷でもみられない所見であり、肺の換気能低下に関連した一過性の肺性P波かと考えられた。このP波の変化については、今後心電図と同時に換気モニターやオキシメーターを利用して、その成因を追求し、これが運動負荷過多に結びつく所見か否か検討したい。

(次に症例5と症例6の心電図を示した。)





検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



〔目的〕

筋ジス患者の機能訓練量については、心電図所見や肺機能、疲労度などをもとに個々の症例で心肺機能に過重とならぬ様な適切なものが決められねばならない。我々の施設に、運動中でも記録可能なテレメーター心電計が設置されたので、これを利用して運動負荷前、負荷中および負荷直後の心電図を記録し、この所見をもとに訓練量の適否を簡便に判定することを目的とした。